



## 三年目の大祭 天王祭 南千住一口話 第163回

素盞雄神社は、江戸時代では牛頭天王飛鳥社と呼ばれていました。明治（一八六八年）に入り、天皇を中心とする神道政治を薦めたために明治五年（一八七二年）素盞雄神社と改名しました。

素盞雄神社は平安時代延暦十四年（七百九十五年）に創建され、今年で1220年経ちます。本年度220回目となる天王祭は文字通り永い歴史ある祭礼です。

素盞雄神社と関わりのある祭礼地区は町屋・三河島・南千住です。但し、南千住汐入地区は胡録神社で南千住三丁目地区は石浜神社、真先稻荷神社の地域となっています。ちなみに南千住には素盞雄神社・熊野神社・胡録神社・石浜神社・日枝神社・若宮八幡神社・真先稻荷神社と七箇所（箇所）の神社があります。訪ねて歩いて見てください。

江戸時代に町方（まちかた）と定められていた地域は夏の祭です。地方（ちかた）（田舎、農村地帯）地域は農作物の収穫が終わってからの祭になるため、秋祭になります。北千住（足立区側）は地方でしたので全部秋祭になります。

御輿は神や天皇が乗る物で輿と言われ、担いだり手で支えて静々と進む乗り物です。素盞雄神社の御輿は二天棒（前後だけの担ぎ棒）です。千住三丁目や旭町は御輿の担ぎ棒が四天棒（前後だけでなく左右にも付いたもの）でしたが、南千住の上町（私の祭礼地区）から永年指導に行き、担ぎ型を四天棒から二天棒に変えています。

今年の天王祭は大祭です。御祭神スサノオノミコトが大蛇（おろち）から救出し御結婚された稲田姫の山車人形が飾られます。なか二年の陰祭を経て三年目に素盞雄神社御本社神輿が氏子全域を渡御（巡行）します。京都の祇園祭と同様に夏に流行する疫病を祓う都市型の例祭です。

六月二日夜の降臨祭（宵宮祭）の後、三日の例大祭式は、六十一ヶ町総代を初め祭礼関係者の式典が斎行されます。六月六日（土）の御本社宮出しでは神社の大御輿が朝七時にお宮を出ます。コッ通り↓千住間道↓明治通り↓サンパール通り↓尾竹橋通り原稻荷神社の御旅所で一泊町屋地区・三河島地区を廻って明治通り大関横丁へ（午後三時）ここで南千住方が引き継ぎ二丁目を廻り日光街道↓仲通り↓コッ通りへ。北に進み城北信用金庫前から宮入の式典が五時から始まり、

神輿振りがあつて神社に入ります。宮神輿を担げる人は各町内から選ばれた人々が本社神輿を担ぐ時は、担ぎ手全員のを着て、はんだこ、白足袋、各町会・睦の決められた鉢巻きを身に付け担ぎます。

町内の神輿は各町内を巡行しています。皆さまの厄を払い、幸せな日々が心安らかに過ごせるように神様が廻ってください。

町会ごとに半天の貸出など掲示してあります。子ども神輿の出るところもあります。ぜひ雄々しい神輿振りを見て参加して、この大祭を楽しんでみませんか。

仙成こと杉山六郎

**【渡御日程】**  
六月 六日（土） 御本社宮出し 午前七時  
原稻荷御旅所奉遷 午後六時  
七日（日） 原稻荷御旅所発輿 午前八時  
御本社宮入り道中 午後五時

**【奉納行事】**  
山車人形 「参番 稲田姫」  
素盞雄神社華道茶道奉賛会  
素盞雄神社天王太鼓会